

案内絵ハガキから見た貴重書展示会のイメージ（5）

「日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち」

今泉 佳世子



皆さんは検索コーナーの隣にある「図書館稀覯書展案内葉書コレクション」をご存知ですか？今までに本学図書館が主催した展示会の案内絵ハガキが紹介されています。今回そのなかから「日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち」という展示会を紹介します。1549年、室町時代末期。キリスト教が日本にやってきたのは戦国大名が群雄割拠した動乱の時代でした。実はキリスト教の日本伝来は国内に大きな変化をもたらすだけでなく、ヨーロッパ諸国にも大きな影響を与えていたのです。

この展示会は2006（平成18）年にフランシスコ・ザビエルの生誕500年の記念として行われたものです。ザビエルを始めとするイエズス会の宣教師達が日本からヨーロッパに向けて送った書簡や布教の際の説教録、ザビエルの伝記などが展示されました。

1492年にコロンブスがアメリカ大陸に到達して以来ヨーロッパの人達の目はアメリカ大陸とアジアに向けられ、たくさんの人が大きな夢を抱え航海に出ました。ザビエルもイエズス会の宣教師として東洋世界にキリスト教を伝えるという大きな役割を担い、ポルトガルのリスボンを出発します。インドやマラッカで布教活動を行った後、ついに1549年に鹿児島に上陸しました。国内は度重なる戦で荒れ果てており、さらに文化や言語の違いによる問題のせいで布教は容易なものではありませんでした。しかしザビエルは平戸、山口、堺、京都を移動しながら各地の領主に布教の許可を得て熱心に布教活動を行いました。

『1582年 イエズス会日本通信』には織田信長がキリスト教布教に対して大変好意的であっ

たことや安土城の城下町の繁栄ぶりについての記述があり、当時の日本の状況を知るのにとっても貴重な資料となっています。また『ザビエル書簡集』（1682年）には計73通の書簡が収録されており、日本に上陸してから起こった出来事や、日本人と日本の文化を高く評価する報告がされています。これらの書物はラテン語、イタリア語、フランス語、英語、ドイツ語と実に多くの言語に訳され、たくさんの人に読まれました。ヨーロッパ世界とは全く異なる日本文化にヨーロッパの人々は大きな関心を抱いたのではないのでしょうか。ヨーロッパからやってきた宣教師達は日本に新たな宗教をもたらすだけでなく、ヨーロッパの人が日本に興味を持つきっかけを与えたという点で貢献したと言えるのではないのでしょうか。



今回紹介した展示物以外にもとても貴重な書簡などがたくさん展示されました。これらの内容は図書館ホームページのデジタル展示会で見る事が出来ますので、是非ご覧下さい。

いまいずみ かよこ（スペイン語学科4年次生）